

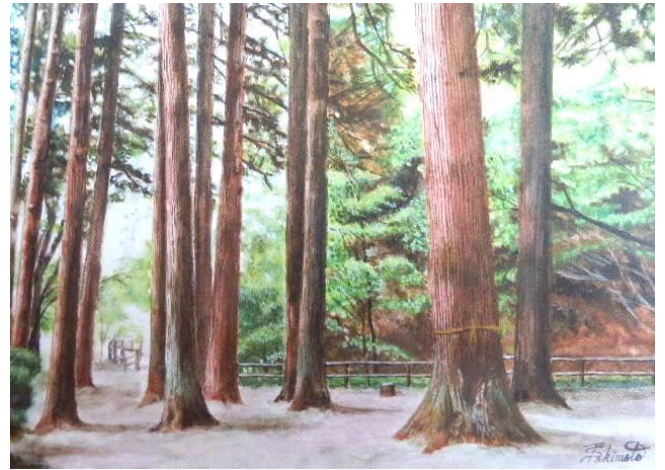
学長のコラム

オープンキャンパス（8/23 第 2 回）ご苦労さまでした！

第 2 回目ということで少し気分的には余裕があったが、アリーナに入ってみると、椅子を追加することになり、900 名を超える参加者ではないかとの佐藤学務課長のコメントを聞いて気合が入る（後の集計によると、参加者数は 920 名で、8 月期としては史上最多を記録）。「人生の 3 つの重要な選択の内の 2 つ、すなわち、大学と職業をセットで選択することになるので、自分の性格・資質と進路がマッチするかを十分に見きわめた上で、やる気とコミュニケーション力のある人に来ていただきたい」と挨拶。

その後、「保護者のための説明会」に陪席。ここでも、「保護者の意見でなく、子供さんたちが自分の意志で志望を決定するよう」訴えていただいたのは、有効であったと思う。その後の学科見学は、7 月の第 1 回 OC で見なかったものを中心に回った。午前、医学検査学科の「寄生虫」を見せていただいた後、古閑公治先生に、「MRI、超音波などの検査法」の解説を頂いた。理学療法学専攻では、「バイオメカニクス」、「神経科学研究」を見学、生活機能療法学専攻では、「脳の疲労を測定」したが、7 月と同じく、若干疲労気味。しかし、「ここと脳のリハビリ体験」（木村伊津子先生）では、テストの結果、リーダーに向いているとの診断で、良い気分。

午後、看護学科の「赤ちゃん抱っこ体験」では、孫を抱いた経験が残っていて合格、「妊婦体験」では、10 kg のお腹を抱える妊婦のすごさを体験した。また、助産別科（田口昭子先生）では、胎児の心音回数が、大人の倍ほど速いのに驚いた。最後に、「1500 カフェコーナー」を訪れ、嶋田かをる先生に率いられたピア・サポーターの学生諸君にお礼を申し上げた。14 時～15 時は、送迎バスを見送ったが、お互いに手を振り合うアイコンタクトの中に、確実な手ごたえを確信した。とりわけ、石原就職・実習支援センター長の「待つとるけんね！」との別れの言葉は、参加者の心をつかんだに違いない。準備、実施、後片付け、皆様、本当にありがとうございました。



9 月・10 の主な行事予定

9 月 1 日（火）	認定看護師教育課程（脳卒中）入学式 主任・管理職研修（事務職員研修）（～2 日）
7 日（月）	合同中堅職員研修（事務職員研修）（～8 日）
9 日（水）	中堅職員フォローアップ研修（事務職員研修） タバコフリーキッズ 熊本発表会
10 日（木）	職員旅行（呼子・唐津方面）（～11 日） コンケン大学交換研修生派遣（～22 日）
18 日（金）	医学検査学科卒業研究発表会
26 日（土）	2・3 年次保護者会
28 日（月）	9 月次卒業式
30 日（水）	リハビリテーション学科 3・4 年次 合同就職説明会
10 月 7 日（水）	認定看護師教育機関 認定更新 現地視察
17 日（土）	第 39 回杏祭
19 日（月）	社会人入試出願（～30 日）
21 日（水）	動物慰霊祭
23 日（金）	私学事業団 平成 26 年度補助金実地調査
24 日（土）	大学行政管理学会

キャリア教育研修センター認定看護師教育課程 脳卒中リハビリテーション看護分野入学式

9 月 1 日（火）に脳卒中リハビリテーション看護の入学式を行い、10 名の研修生が入学されました。



職員旅行

9 月 10 日（木）～11 日（金）に職員旅行で佐賀の呼子・唐津に行きました。日帰り 40 名、宿泊 32 名の参加で、晴天にも恵まれました。呼子の朝市から始まり、佐賀県重要文化財鯨組主「中尾家屋敷」の見学後、おいしいイカを堪能し、伊万里の秘窯の里「大川内山」を散策したりと、盛りだくさんの内容でした。幹事は、リハビリテーション学科の木村教授、山野教授、申准教授、松原（誠）講師、松原（慶）講師、栗林講師でした。お陰様でとても楽しく、教職員の親睦も深まりました。ありがとうございました！



第2回オープンキャンパス及びチャレンジ熊保大!

8月23日(日)に「第2回オープンキャンパス」を開催し、アリーナを埋め尽くすほど、多くの高校生・保護者の方々にお越しいただきました。県内を始め、中には埼玉や沖縄等の遠方からわざわざ足を運んで下さった方々もいらっしゃいました。大変有難く思います。写真は、オープンキャンパス全体オリエンテーションの際のものです。



また、一週間後の8月30日(日)に開催した「チャレンジ熊保大! 推薦入試対策講座」では、例年同様「壺溪塾」の講師の方々に英語、国語総合、数学I・Aの受験勉強の指針をご教授いただきました。本学の受験を検討されている高校生の皆様の受験勉強のお役に立てればと思います。

ST 国試対策夏期集中講義

8月26日(水)にST国試対策夏期集中講義の激励会を実施しました。言語聴覚学専攻で夏に国試対策集中講義をするのは初めての試みということで、塩見専攻長、河瀬総務部長がそれぞれお話しされました。

河瀬部長は、「あつき夏」という言葉で、「あつい・つらい・きつい夏!」と受験生の気持ちを表し、この夏を乗り切るには、「あつき思い」絶対国試に受かるぞ!という揺るぎなき「熱き思い」で頑張るように、「危機感を持って、熱き思い、あつき夏をみんなで乗り切ろう!」と誰よりも熱い思いで激励の言葉をかけられました。国試まで半年を切りました。STに限らず、全員合格を目指して頑張りましょう!



私の秘話ヒストリー

今回は、言語聴覚学専攻の池寄講師に投稿していただきました。

私は、小学4年生から高校3年生までの9年間野球をしていた。この話をすると、「ポジションは?」と聞かれるので、私はいつも「左利きだったので、投手と一塁手でした。でも、補欠でしたけどね」と答える。私は、9年間補欠であった。補欠でも続いていたのは野球への情熱と自尊心である。しかし、最後の夏の甲子園大会予選の際には、その情熱も自尊心も揺らいでいた。打撃、投球、そしてコーチングさえも私は後輩に敵わず、試合の中で私の役割はなくなっていった。同級生や後輩がグラウンドで輝く中、私は、率先してボールを拾い、友人にグローブを届け、ベンチから声を出し、道具を片付けた。そんな私を見て、多くの保護者から賛辞の言葉をかけてもらった。保護者からすると、純粋な称賛だったのである。しかし、当時の私は快活に返事をし



ながら、胸の内をえぐられる思いであった。光の多いところ、強い影がある、この経験は今の私を形作る大切な宝物である。

(文責: 池寄講師)

ルーブリック評価とFD

8月26日(水)に九州工業大学の宮浦崇先生を講師に迎え、2015年度第1回FDセミナーを開催しました。セミナー前半では、教育の質保証の為に求められる課題や方策の一つとして、ルーブリックというツールを用いた評価方法や学生への適切な解説(学習指針の提示)についてご講演いただき、後半のワークショップでは参加された先生方が実際に担当されている科目のルーブリックを試作しました。

具体的な作業を通じ、ルーブリック評価のみならずシラバスの記載方法についても考えるきっかけになり、授業そのものや学生の学びを捉え、適切な到達目標を設定していく事について認識を深める場となりました。

(文責: 佐藤学務課長)



第1回ハラスメント防止研修会

8月26日(水)にハラスメント防止委員会主催の第1回ハラスメント防止研修会を開催しました。今回は規程及びガイドラインの改定に伴う研修会で、教職員への再教育・周知を目的とし、本学のハラスメント防止体制と対応の流れについての説明がなされました。第2回は3月に開催予定です。(文責: ハラスメント防止委員会事務局)



*